

「共に生きる力を育てるエイズ学習」その2

中学1年生

1. ねらい

- ・性に関わる学習を通して、自分らしさを大切にしようとする気持ちを高める。
- ・性情報について主体的に判断できる力を養う。
- ・エイズを科学的に理解し、エイズとたたかう患者や感染者の方々の実情について知る。
- ・川田龍平さんや親友の野崎さんの生き方に触れ、2人の心情を考えることを通して、相手の気持ちをより深く考え行動しようとする意欲を持つ。

2 指導計画（1年間の単元展開例）

※ 人権教育の視点で扱う題材

時	題材（教科等）	活動内容（人権教育の視点）	評価
1	①思春期の心と体 （保健体育）	・思春期の男女の体つきや心理面・生理面の特徴的变化を理解する。	・自らのこととして理解する。
1	②私たちと性 （学級活動） ※	・身近な性（男・女らしさ）に関わるさまざまな事象に気付き、一面的に性をとらえるのではなく、一人の人間としての自分らしさこそが大切なことに気付く。 （※ 自尊感情、ジェンダーフリー）	・男らしく・女らしく、といった性のとらえ方の中に潜む偏見に気付く。
1	③大人の性（からだ）と出会う （学級活動）	・自分たちに起こってきた二次性徴での身体の変化の特徴をつかみ、不安や悩みを互いに理解し合う。	・性に関する悩みは、互いに持っていたことに気付く。
1	④性情報の選択 （学級活動） ※	・テレビ・雑誌などに表現される性情報をただ呑みにしていないかどうか振り返り、性のあり方や現実を正しく受け止め、性情報との接し方や選択の仕方について、自分なりの考えを持つ。 （※ 知識・理解、男女平等）	・性情報を正しいものかどうか見極めようとする態度を養う。
1	⑤エイズ・HIVについて知る （学級活動）	・エイズ・HIVとはどのような病気なのか、免疫システムに関わること、感染経路等について科学的に理解する。（日常的感染はほとんどないことも知る）	・エイズはどのような病気か理解する。
1	⑥川田龍平さんを支えた親友 （学級活動・道徳） ※	・川田龍平さんが、HIV感染を、親友野崎さんに打ち明けた時のこの2人の心情を考えることを通して、相手の気持ちをより深く考え行動しようとする意欲を持つ。 （※ 共生、思いやりとは）	・川田さんや野崎さんの心情に、自分自身の気持ちを重ね合わせる。

3 具体的な活動内容

A 題材名「川田龍平さんを支えた親友」（6時間中第6時）※資料 P172 参照

B ねらい

- ・H I Vに感染したことを、勇気を出して親友に告白できるまでになった川田さんのおいたちに触れることにより、川田さんの生き方に思いを寄せることができる。
- ・H I V感染者は「かわいそう」という、第三者的見方をしがちな生徒が、川田さんに言った、野崎さんの「同情しないからな」という言葉について考えることにより、共に生きることの意味に気付くことができる。

C 指導上の留意点

- ・エイズは、日常生活において感染することはほとんどないにもかかわらず、誤った情報による認識のもとに、感染者の多くが偏見を持たれ、差別をされてきたことについての共通認識の上にたって本時を扱いたい。

時間	児童の活動	指導・支援
つかむ 10'	<ul style="list-style-type: none"> ・エイズとH I Vについて前時に学習したことを確認する。 ・川田龍平さんの歩みを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エイズはどんな病気か、感染経路はどうか、日常生活で感染はほとんどないこと、感染者の多くが偏見を持たれたことなど確認をする。 ・V T R資料により、川田龍平さんの歩みについて視聴させる。
ふかめる 30'	<ul style="list-style-type: none"> ・川田さんが親友野崎さんに感染を打ち明けた時の資料を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野崎さんが「でも、同情しないからな」と言った場面をクローズアップし注目させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「同情しない」という言葉から2人の気持ちを考えよう </div>	
まとめる 10'	<ul style="list-style-type: none"> ・川田さんと野崎さんそれぞれの立場に立って2人の思いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野崎さんは、何故「同情しないからな」と答えたのだろう。 ・川田さんは、その時どんな気持ちだったのだろう。
	<ul style="list-style-type: none"> ・この2人はどんな友だちだったのか考え合う。 ・感じたことや気付いたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人の実際の会話場面をV T R資料で見せる。 ・「同情はしない」という言葉の持つ意味について、もう一度深めさせる。 ・感想や今後の自分に生かせそうなことを、カードに記入させる。

D 実践記録

4 評価

- ・エイズ（後天性免疫不全症候群）という病気の基本的な疾病概念がとらえられているか。更に、日常生活では感染する可能性はないことが理解できたか。
- ・「同情する」ということは、必ずしも相手を対等に見ているのではなく、上位の者が下位の者に対して与える心情になりやすいことに気付けたか。
- ・性について学ぶことで、自分自身をよりよく見つめることができ、エイズと共に生きる川田龍平さんや親友野崎さんの心情に触れるなかで、自分の気持ちを重ね合わせることでできたか。

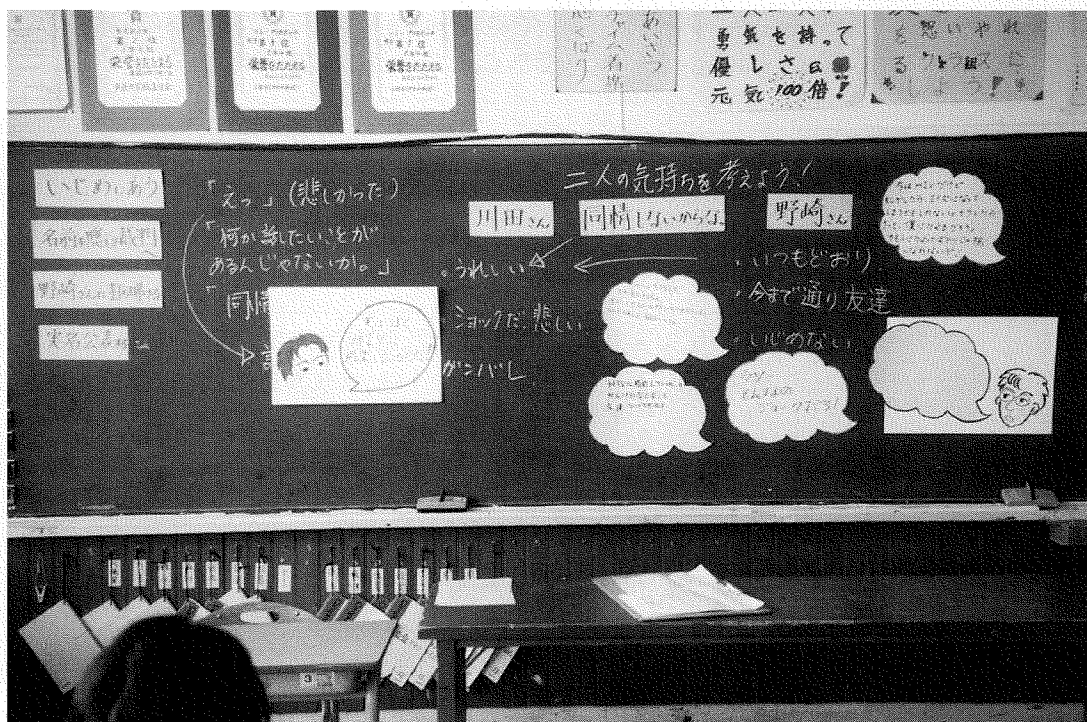
5 成果と課題

【成果】

- ・川田さんが「自分はH I Vに感染しているんだ」と打ち明けた時、野崎さんは「昨日のおまえと、今日のおまえとなんにもかわっていないよ。だから、今まで通り付き合うよ」とも言っている。共生という観点で授業を進めていく時、この野崎さんの言葉は、大きな示唆を与えてくれると思う。
- ・エイズ・HIVに関する科学的な知識理解には、図・グラフ・映像など視覚的なものを多く使用した方が理解度が良くなる。
- ・「男らしさ・女らしさ」「男のくせに・女のくせに」といった性差のとらえについては、生徒にアンケートをとったり、教師側からできるだけ具体的な事例を多く提示できるようにしておく、考え方をよりいっそう深めやすくなる。

【課題】

- ・二次性徴の発現には個人差があり、性に関する学習が、自分自身とすぐに結びつく生徒とそうでない生徒がある。そこで扱う時期は生徒の実情に合わせて十分検討したい。
- ・中学1年生にとって、「かわいそう」という思いと、「同情」という言葉が関連してこないことがあり、野崎さんの心情について考えていくためには、「同情」という言葉の持つ概念を、事前にできるだけ具体的に理解させる必要がある。



川田龍平さんの授業での板書から・・・
「同情はしないからな」
「今まで通り付き合うよ」と野崎さん